



火山の中はどうなっているの

マグマだまりができる

火山が噴火するときに、地下から真っ赤になった、高温でどろどろにとけた岩石が出てきます。これをマグマといいます。

マグマは、地下数十キロメートルから数百キロメートルの所で、できると考えられています。地下の深い所でできたマグマは、地殻の割れ目や、圧力（物をおしつける力）の小さな所をぬって上がり、地下数キロメートルから十数キロメートルの所にたまりまします。これを、マグマだまりといいます。

ガスといっしょに、マグマがふき出す

マグマだまりのマグマは、だんだん冷えてきます。すると、マグマの中にとけていたもの一部が、ガスになります。このガスがたまって、圧力が強くなると、地上近くの弱い部分の、岩石をつきやぶって、噴火が起こります。（監修・国司 真）

